

**炊事
生産活動****薪割り・火おこし体験**

9

1 活動のねらい**【薪割り】**

けがを心配して、薪割りを体験させないことが多いのですが、野外活動体験としてぜひ身につけておきたい力の一つです。そこで、けがのない安全なナタの使い方を学びます。

【火おこし】

木と木の摩擦によって火をおこしていた人間の文明の原点に立ち返り、火を使うことの素晴らしさを体感します。（野外炊事、キャンプファイヤー等につなげることができます。）

2 育てたい能力**C3 野外技能・生活**

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

- ・第一野外炊事場
- ・第二野外炊事場
- ・キャンプ場炊事場
- ・ピロティ
- ・工作館
- ・営火場

4 活動時期

4月～11月 ※冬期は工作館とピロティで実施可

5 所要時間

30分～1時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物**【団体・個人で準備するもの】**

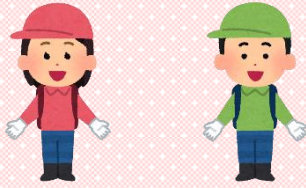
- ・活動に適した服装 ・軍手 ・薪（食堂購入可 1束600円）
- ・火おこし用板（食堂売店で購入可 680円）
- ・火きりぎね、麻ひも（食堂売店で購入可 90円）
- ・ローソク（食堂売店で購入可 大1本：130円 中1本：30円 小1本：20円）

【自然の家で貸し出しできるもの】

- ・なた…10丁 ・薪割り台 ・火おこしセット（ひきりぎね）

8 活動の手順（薪割り）

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



②活動のねらいや注意点を説明します。



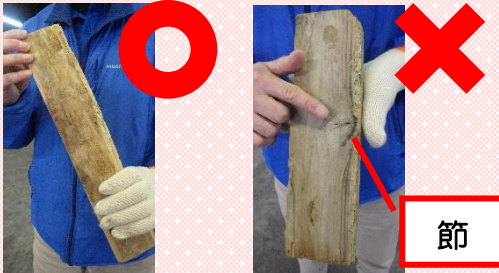
③用具を準備します。ナタは事務室で貸し出します。薪割り台は活動場所にあります。



④ナタを持つ手の軍手を外して、もう片方の手に重ねます。



⑤薪の束の中から節がないものを選びます。



⑥軍手をした手で薪を持って、台の上に立てます。



⑦ナタを持って、薪の上に静かに置きます。※決して振り降ろしません。



⑧薪をおさえていた手を外します。



⑨別の太い薪で、ナタの背をたたき、ナタを薪に割り込ませます。
(誰かにやってもらってもよいです。)



⑩なたが薪に割り込んだら、叩くのをやめて、なたに薪がついたまま台の上に打ちつけます。(足にナタが当たらないように真っ直ぐに降ろします。)



⑪ ⑤～⑩を繰り返し、細い薪を作り、野外炊事等に活用します。

⑫後片付けをします。事務室に活動終了の報告をし、借用物品を返却します。

8 活動の手順（火おこし）

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



③活動のねらいや手順を説明します。



⑤火おこし器に火きりぎねを差し込んで、火おこし用板の穴に垂直に立てます。



⑦火おこし用板をしっかりと固定し、両手で横木を持って、ゆっくり真下に下げて芯棒を回転させます。



ロープが伸びる手前で力を抜くと、反動で自然にロープが芯棒に巻き付き、横木が上がっていきます。
(ヨーヨーのような感覚)

⑨たまった黒い粉の中に火種ができれば、麻ひもに包みます。



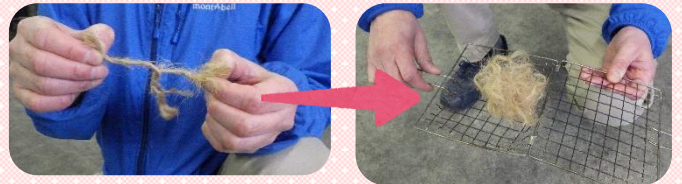
⑪火がついたら、ろうそくや薪に火を移します。(必要に応じて)



②用具を準備します。



④麻ひもをほぐして、金網にセットします。



⑥火おこし器本体の芯棒を回転させ、ロープを巻き付けます。



⑧この上下運動をゆっくり繰り返して、「キュッキュ」と音が鳴り始めたら、スピードを上げ、力強く上下させていきます。



約1分間頑張ろう！

⑩火種の入った麻ひもを金網に挟み、ゆっくりと振ります。



⑫後片付けをします。

※必ず引率者が立ち会ってください。
(破損等があればご連絡ください。)

9 留意点

- 活動に使用した道具は、責任をもって返却してください。
- ナタの使用については、安全の徹底を図ってください。
- 使い終わったナタはケースに戻し、台の上に保管します。
- 焚きつけ用として使う場合には、太い薪を2本割れば十分です。
- 火おこし用板と火きりぎねは事前に作って置くこともできます。火きりぎねは、杉材よりも桐やバルサ、紫陽花等が適しています。
- 火おこし用板と火きりぎねが湿っていると火はおきません。十分乾燥したものを使ってください。
- 麻ひもに鉛筆の削りかすを混ぜておくと火がつきやすくなります。